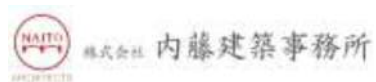




# 青梅市立総合病院 新病院基本設計説明会



# 青梅市立総合病院新病院基本設計概要書



## 理念

私たちは、快適で優しい療養環境のもと、地域が必要とする高度な急性期医療を、安全かつ患者さん中心に実践します。

## 基本方針

- 私たちは、**清潔**な病院づくりに努力します。
- 私たちは、**親切**な病院づくりに努力します。
- 私たちは、**信頼**される病院づくりに努力します。
- 私たちは、**自立**できる病院づくりに努力します。



## ■多摩川から新病院を望む



## ■新病院の施設整備方針

1 救命救急センターのさらなる強化を図る病院づくり

2 高度急性期医療・高度専門医療を強化・拡充する病院づくり

3 災害に強い病院づくり

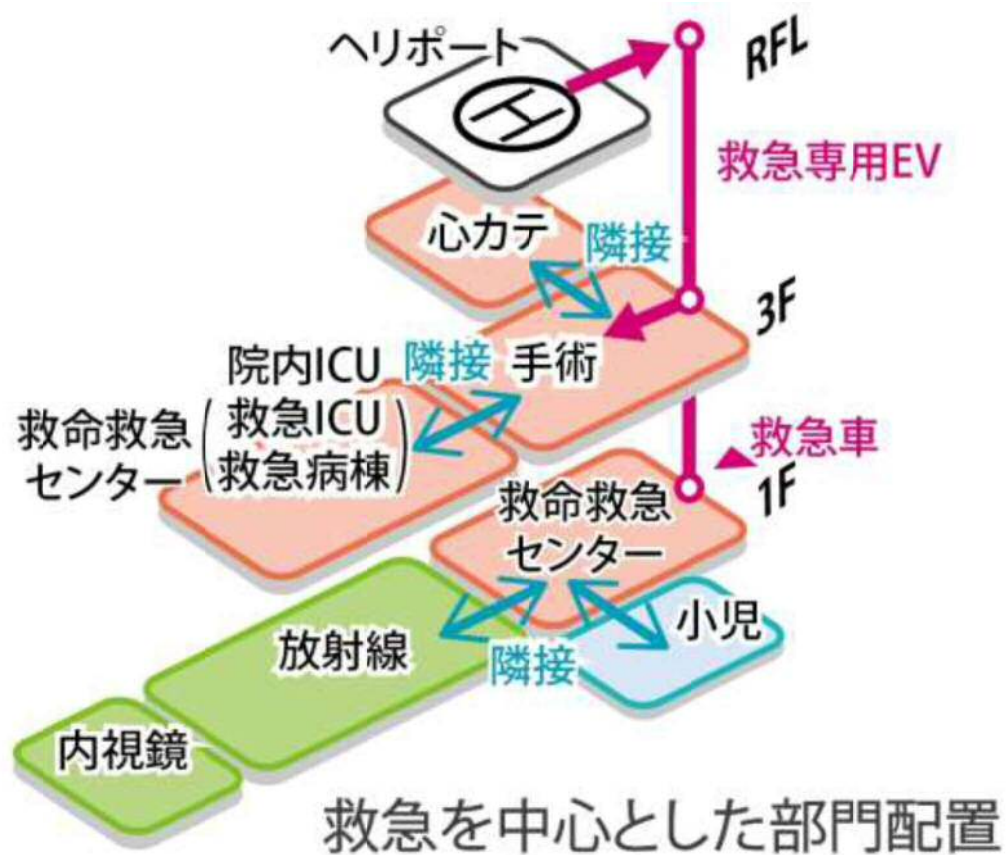
4 地域の人々や職員に愛される病院づくり

5 環境に配慮した病院づくり

6 病院運営をしながらの安全かつ合理的な建替計画

# 1 救命救急センターのさらなる強化を図る病院づくり

- 救命救急センターと関連部門を新南棟に一体整備



## 2 高度急性期医療・高度専門医療を強化・拡充する病院づくり

- 臓器別センター化 (心臓血管、消化器病、呼吸器病、脳神経、脳卒中)
- 地域がん診療連携拠点病院としての機能強化 (緩和ケア病棟、がん相談窓口)
- 血液疾患治療基幹病院としての機能強化 (血液内科外来充実、無菌病室)
- 東京都周産期連携病院としての機能強化と小児救急体制の整備 (新生児集中治療室、新生児後方病床)
- 救急病棟や集中治療室( I C U)の機能強化 (救急病棟20床、救急ICU4床、院内ICU6床)
- 手術部門の機能強化 (手術室8室→10室を拡張、バイオクリーン室)
- 放射線部門の機能強化 (血管造影撮影、コンピューター診断装置)
- 第二種感染症指定医療の機能強化 (独立した感染外来、感染症病床4床→6床へ)



ハイブリッド手術室(イメージ図)



手術支援ロボット「ダヴィンチ」(イメージ図)



アンギオCT室(イメージ図)

### 3 災害に強い病院づくり

- 地域災害拠点中核病院に相応しい構造計画
- 被災傷病者等への対応
- ライフラインの多重化
- 充実した備蓄倉庫



免震構造の採用



災害に強い中圧ガス



## 4 地域の人々や職員に愛される病院づくり

- 患者支援センターの整備 (地域連医療携の強化、窓口の一本化)
- 患者が安心できる療養環境の整備 (個室を主体、1床あたり6㎡→8㎡へ拡大)
- 職場環境の充実 (スタッフコモンズの整備)

## 5 環境に配慮した病院づくり

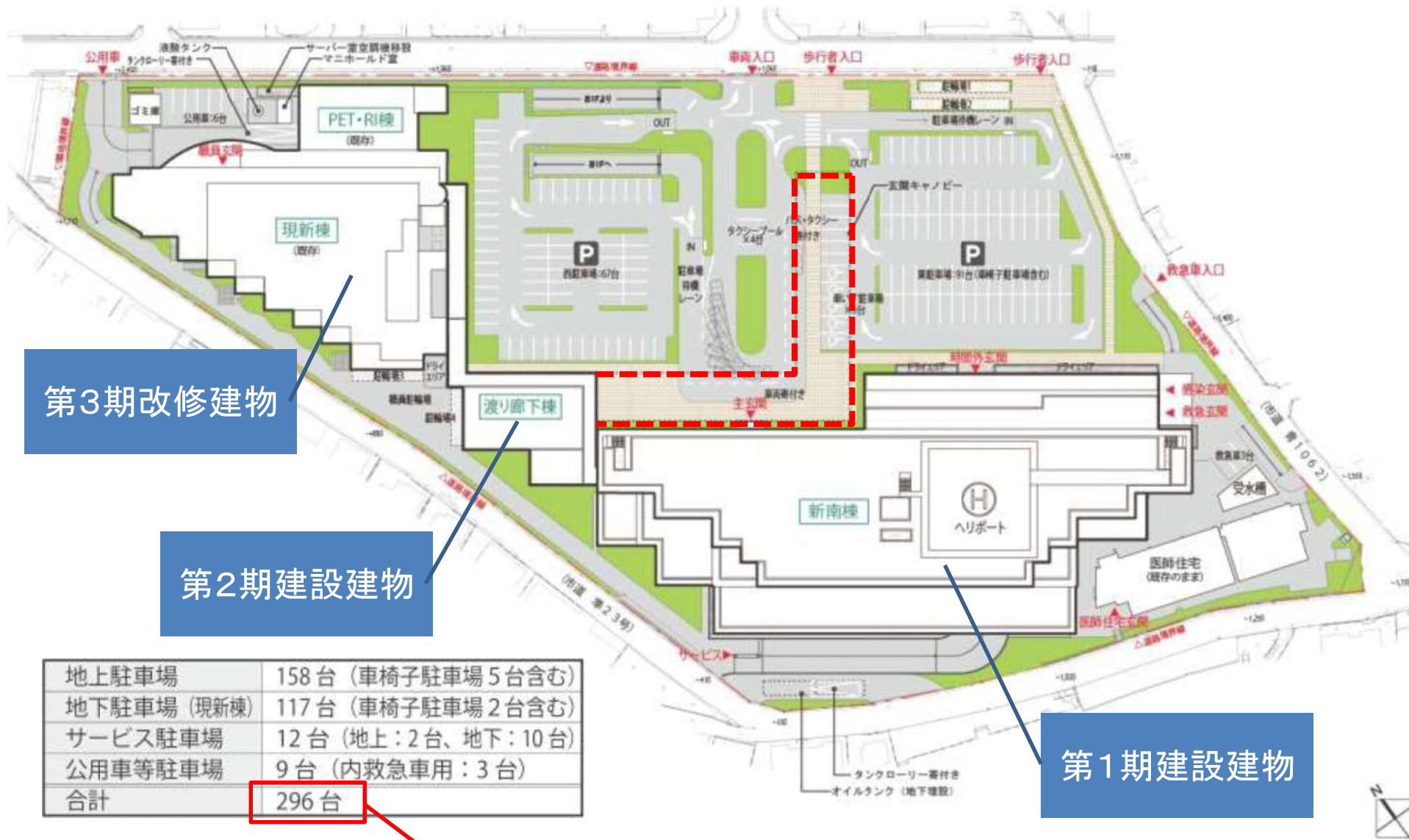
- 省エネルギー設備の導入 (高効率な設備、節水型器具、雨水の再利用)

## 6 病院運営をしながらの安全かつ合理的な建替計画

- 合理的な建替え計画 (同一敷地内での無理のない建替え工事)

配置図

施設完成後の敷地平面図



現在の駐車台数は 214台

# 建物概要

## ■ 1\_ 病床数

病床種別		病床数
一般病床	一般7：1病床	465 (469)
	救急病床	411 (415)
	救急ICU	20
	院内ICU	4
	NICU	6
	GCU	3
	緩和ケア病床	6
精神病床	15	30
感染症病床		6 (4)
合計		501 (503)

※ ( ) 内は基本計画時の病床数

## ■ 2\_ 診療科目

現在の病床数は 562床

内科、呼吸器病センター(呼吸器内科、呼吸器外科)、心臓血管センター(循環器内科、外科、心臓血管外科)、消化器病センター(消化器内科、消化器外科)、血液内科、内分泌糖尿病内科、腎臓内科、脳神経センター(神経内科、脳神経外科)、脳卒中センター、リウマチ膠原病科、乳腺外科、整形外科、形成外科、化学療法外科、精神科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、リハビリテーション科、放射線科、病理診断科、臨床検査科、救急科、麻酔科、歯科口腔外科、緩和ケア科

# 建物概要

## ■ 3\_ 構造・規模

建物名	構造	規模
新南棟	鉄骨造 一部鉄骨鉄筋コンクリート造	地下1階/地上8階/塔屋階2階建
玄関キャノピー	鉄骨造	地上1階建
渡り廊下棟	鉄骨造 一部鉄骨鉄筋コンクリート造	地下1階/地上3階建
現新棟 (改修)	鉄骨鉄筋コンクリート造	地下2階/地上6階/塔屋階1階建
PET・RI棟 (既存)	鉄骨造	地上1階建
現東棟 (改修)	鉄筋コンクリート造	地下1階建
現西棟 (改修)	鉄筋コンクリート造	地下1階建
現西棟渡り廊下	鉄筋コンクリート造	地下1階建
医師住宅 (既存)	鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造	地上4階建
ゴミ庫	鉄筋コンクリート造	地上1階建
マニホールド室	鉄筋コンクリート造	地上1階建
駐輪場1~4	アルミ既製品	地上1階建

# 建物概要

■ 4\_ 延べ面積表

単位：㎡

		新南棟	渡り廊下棟	現新棟	PET・RI棟	現西棟	現西棟 渡り廊下	玄関 キャンピー	医師住宅	ゴミ庫	マニホー ルド室	駐輪場1	駐輪場2	駐輪場3	駐輪場4	
床面積	PH2階	27.01														
	PH1階	68.70														
	8階	2,651.23														
	7階	2,651.23		96.09												
	6階	2,651.23		1,296.81												
	5階	2,651.23		1,633.99												
	4階	3,183.02		1,674.62					377.48							
	3階	4,338.52	211.47	1,669.28					414.72							
	2階	4,630.27	265.61	1,674.00					419.85							
	1階	4,619.14	733.59	2,010.75	319.89			194.88	363.31	40.00	15.45	48.00	52.00	34.04	27.14	
	地下1階	4,338.54	179.06	3,655.49		991.69	53.90									
	地下2階			4,352.60												
	床面積	31,810.12	1,389.73	18,063.63	319.89	991.69	53.90	194.88	1,575.36	40.00	15.45	48.00	52.00	34.04	27.14	
	合計	54,615.83														
容積 不算入 面積	EV	834.84		290.92					14.04							
	駐車場等	1,013.82		5,757.10				194.88				48.00	52.00	34.04	27.14	
	自家発電機 蓄電池設備	119.58		197.96												
	備蓄倉庫					991.69										
小計	1,968.24		6,245.98	0.00	991.69	0.00	194.88	14.04	0.00	0.00	48.00	52.00	34.04	27.14		
容積不算入 面積合計	9,576.01															
容積対象面積	45,039.82															

# 建物概要

## ■ 5\_ 建築面積表

単位：㎡

	新南棟	渡り廊下棟	現新棟	PET・RI棟	現西棟	現西棟 渡り廊下	玄関 キャノピー	医師住宅	ゴミ庫	マニホー ルド室	駐輪場1	駐輪場2	駐輪場3	駐輪場4
建築面積	4,915.09	733.59	2,162.50	319.89	0.00	0.00	777.24	419.09	18.90	15.45	25.80	28.20	16.64	22.20
合計	9,454.59													

## ■ 6\_ 容積率・建蔽率

敷地面積	22,734.42㎡	
延べ面積	54,615.83㎡	
容積対象延べ面積	45,039.82㎡	
容積率	45,039.82 / 22,734.42	198.11%
建築面積	9,454.59㎡	
建蔽率	9,454.59 / 22,734.42	41.59%

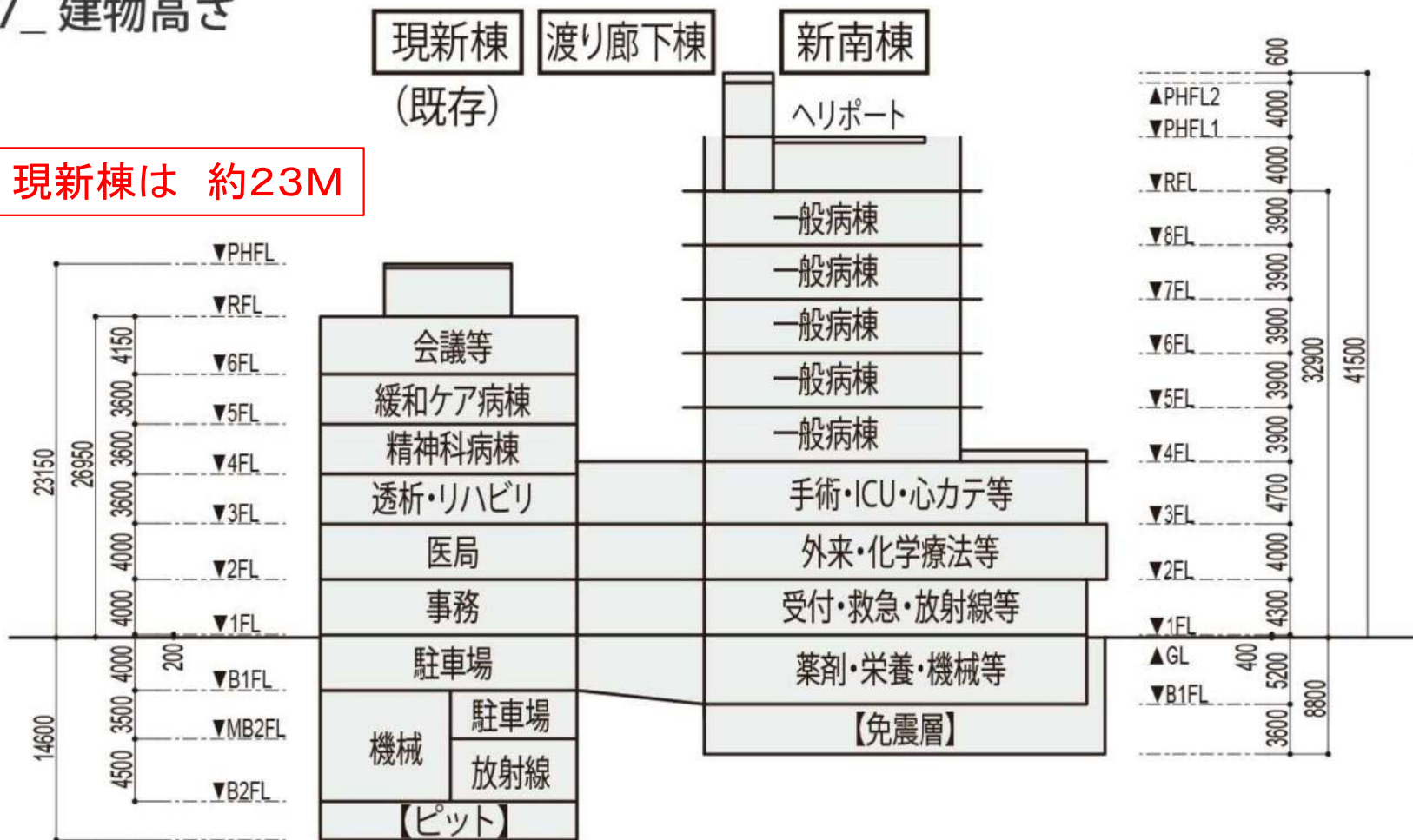
許容容積率は 200%

# 建物概要

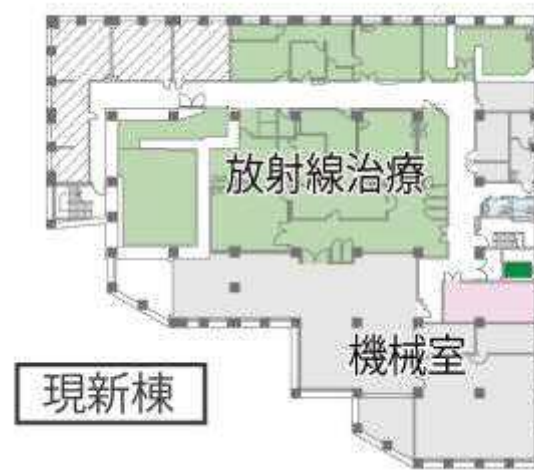
新南棟は 約41M

## 7\_ 建物高さ

現新棟は 約23M



# 地下2階、地下中2階平面図



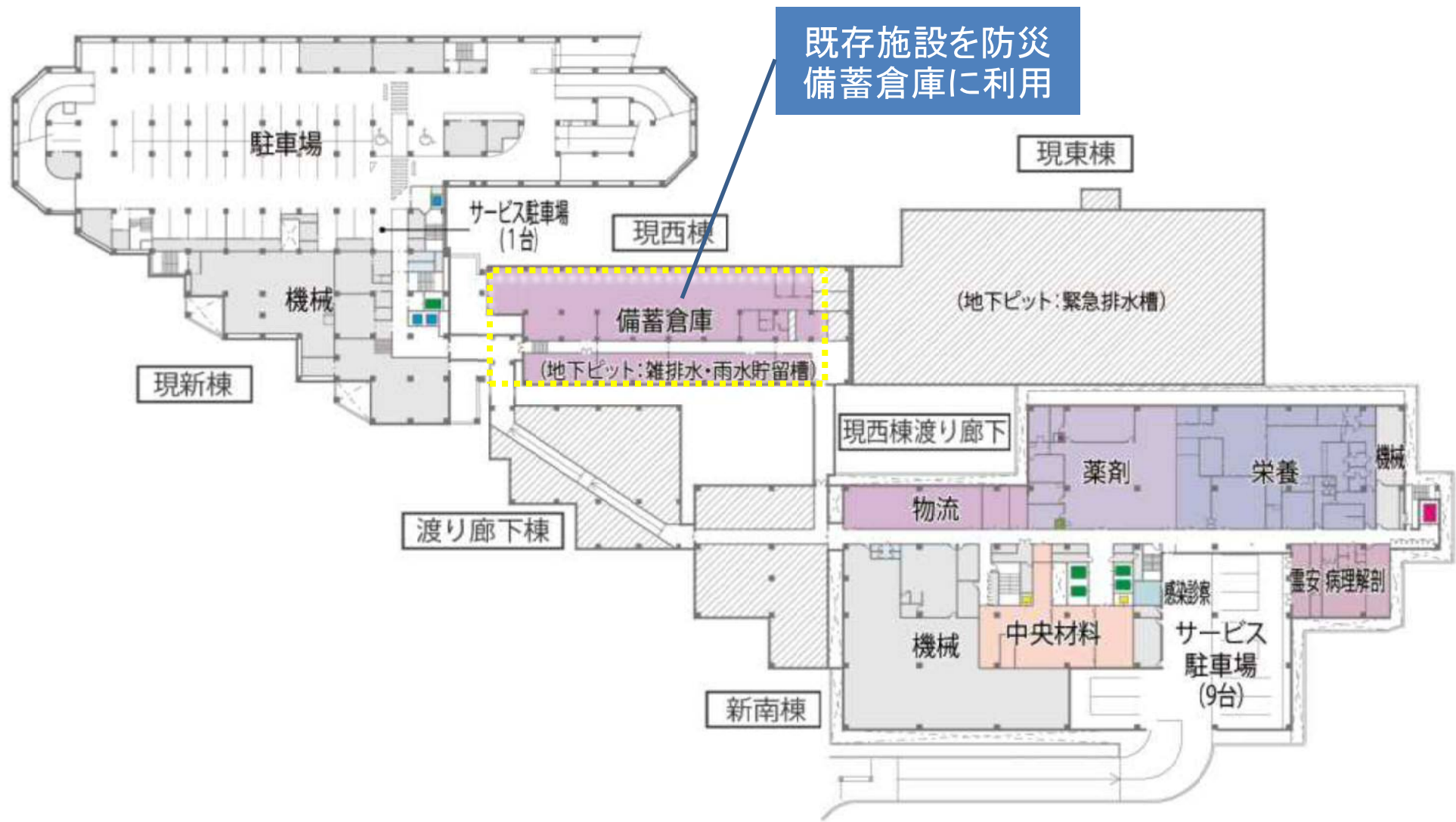
既存施設のまま

B2F

B中2F



# 地下1階平面図



既存施設を防災  
備蓄倉庫に利用

地下1階は、供給部門を集約してる

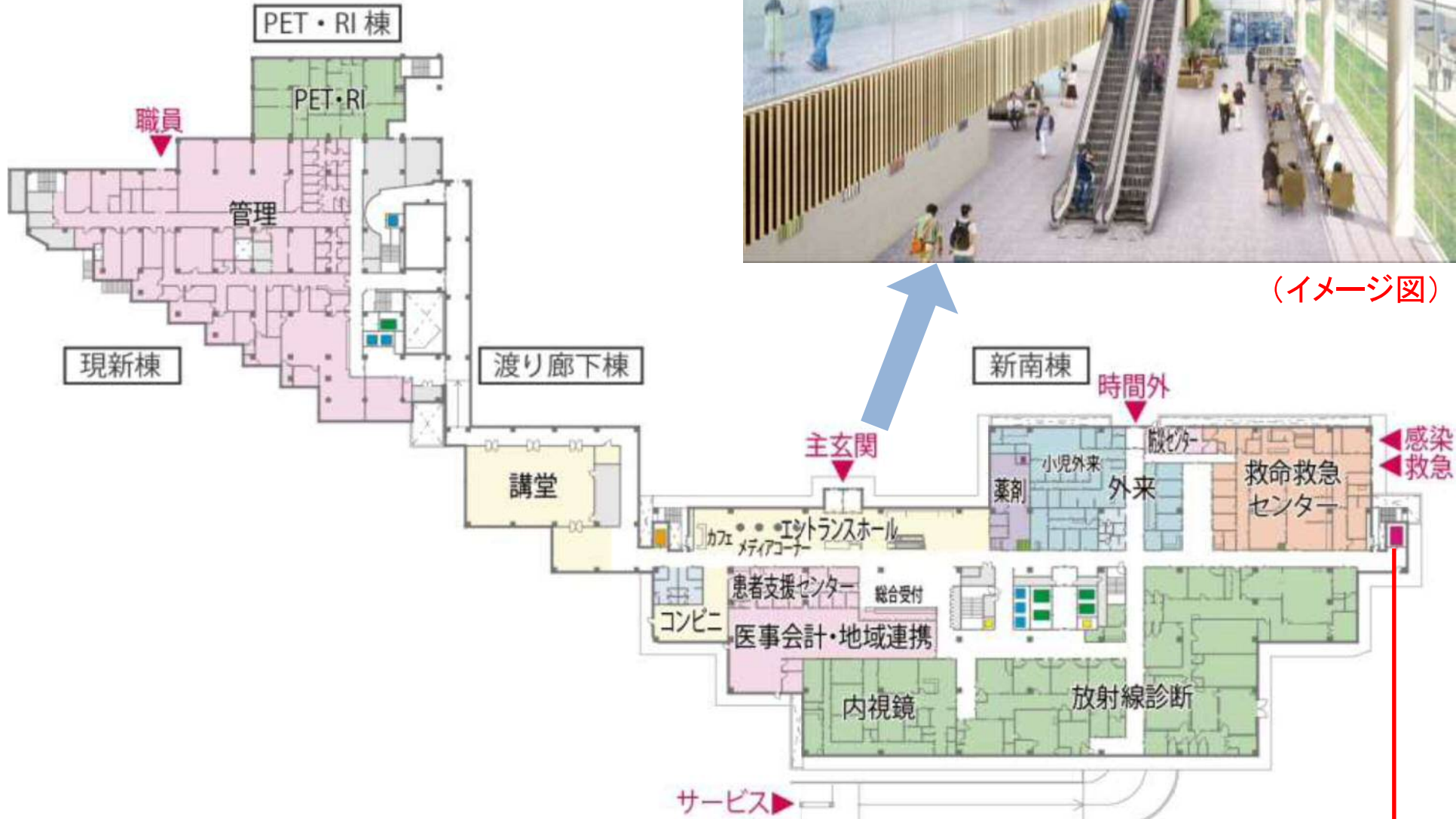


B1F

# 1階平面図



(イメージ図)



救急専用エレベーター



作

# 2階平面図

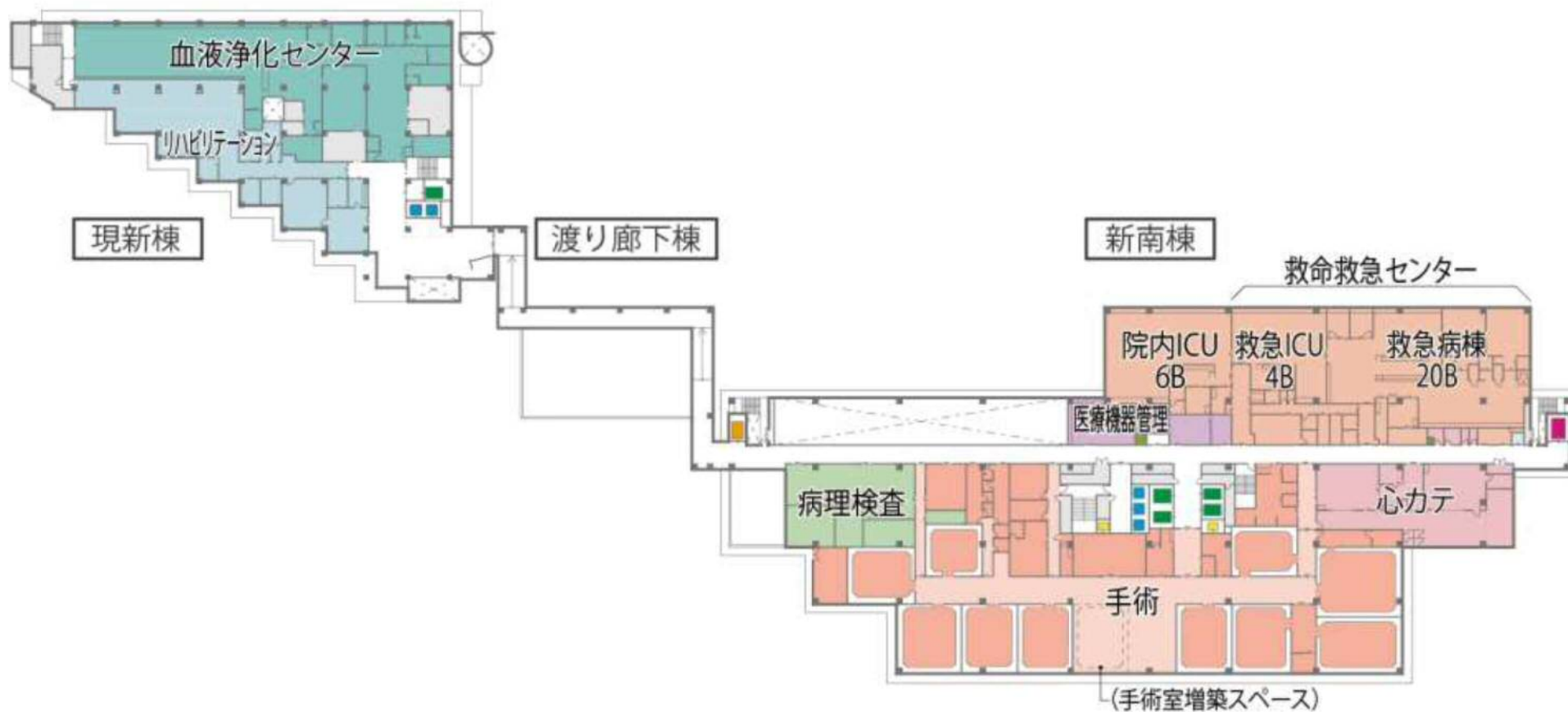


2階は、外来部門を中心に整備



2F

# 3階平面図



3階は、高度急性期機能に対応するフロア

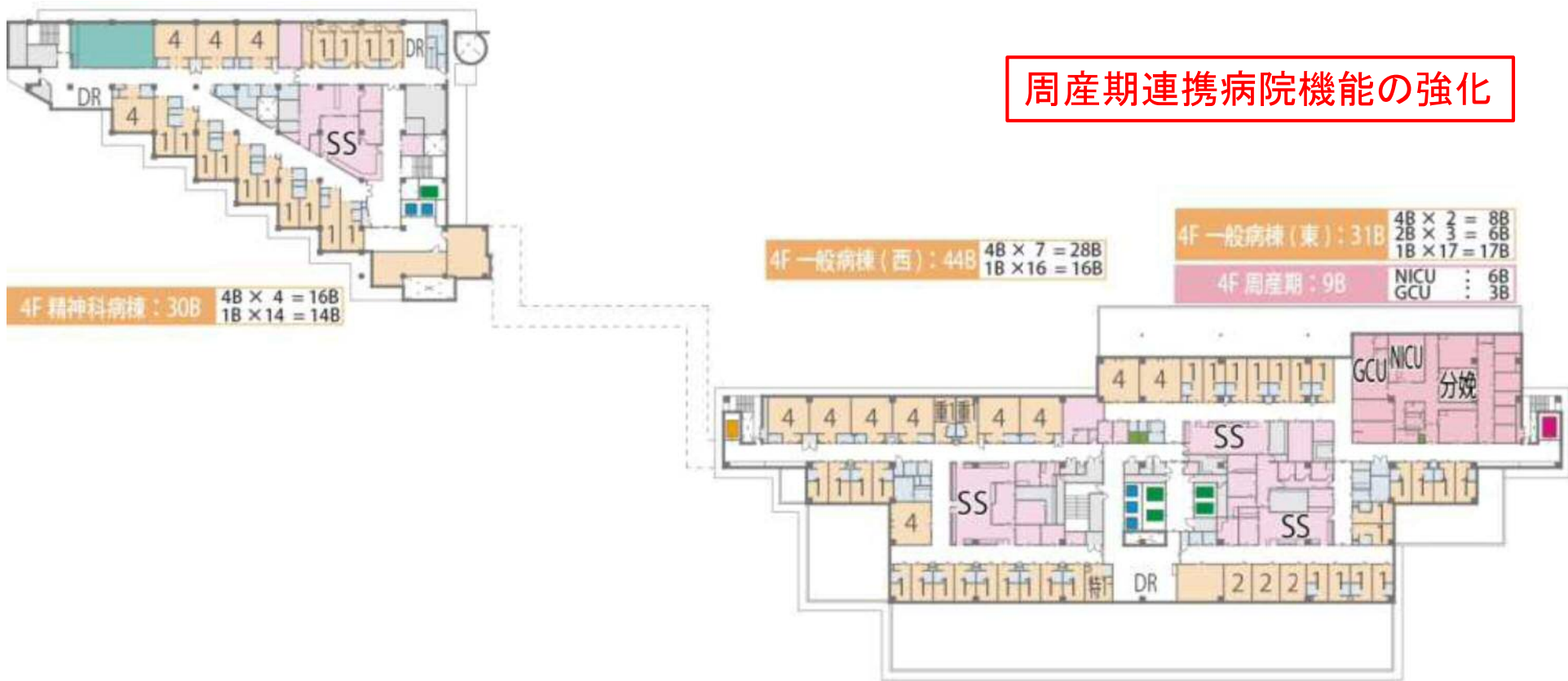


3F

# 4階平面図

精神科病棟30床を整備

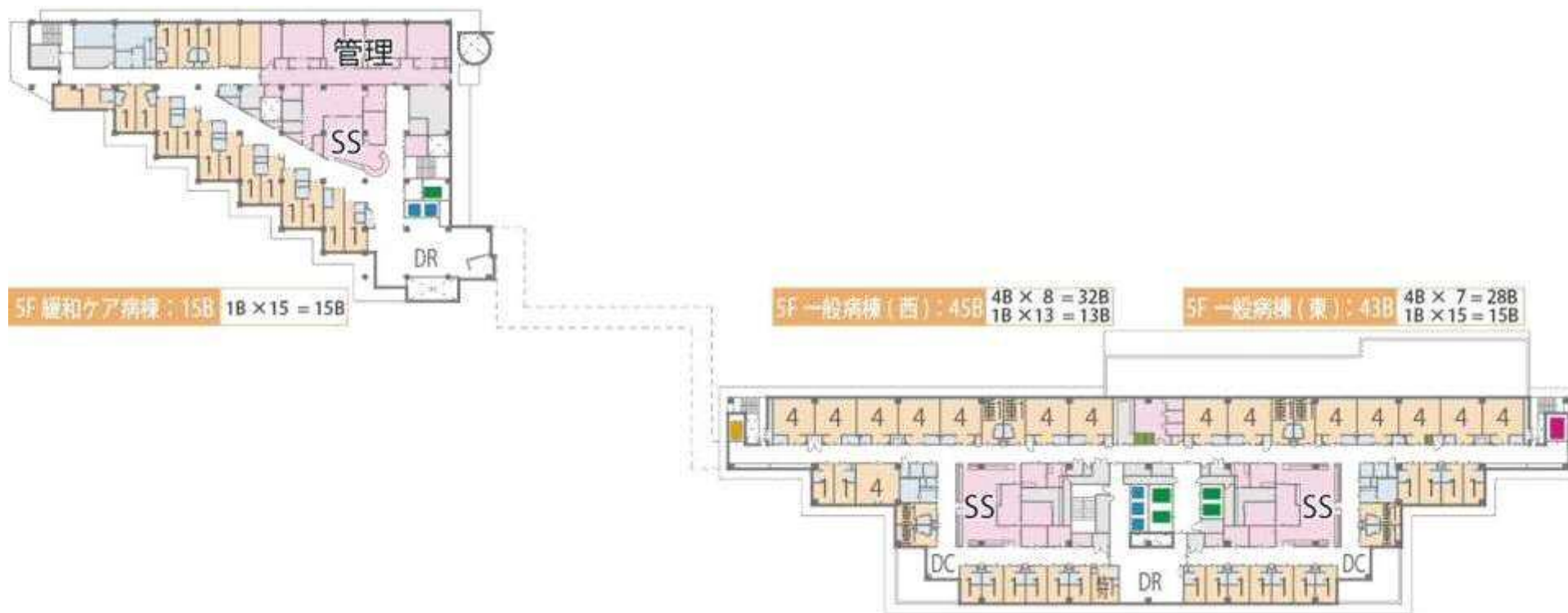
周産期連携病院機能の強化



4F

# 5階平面図

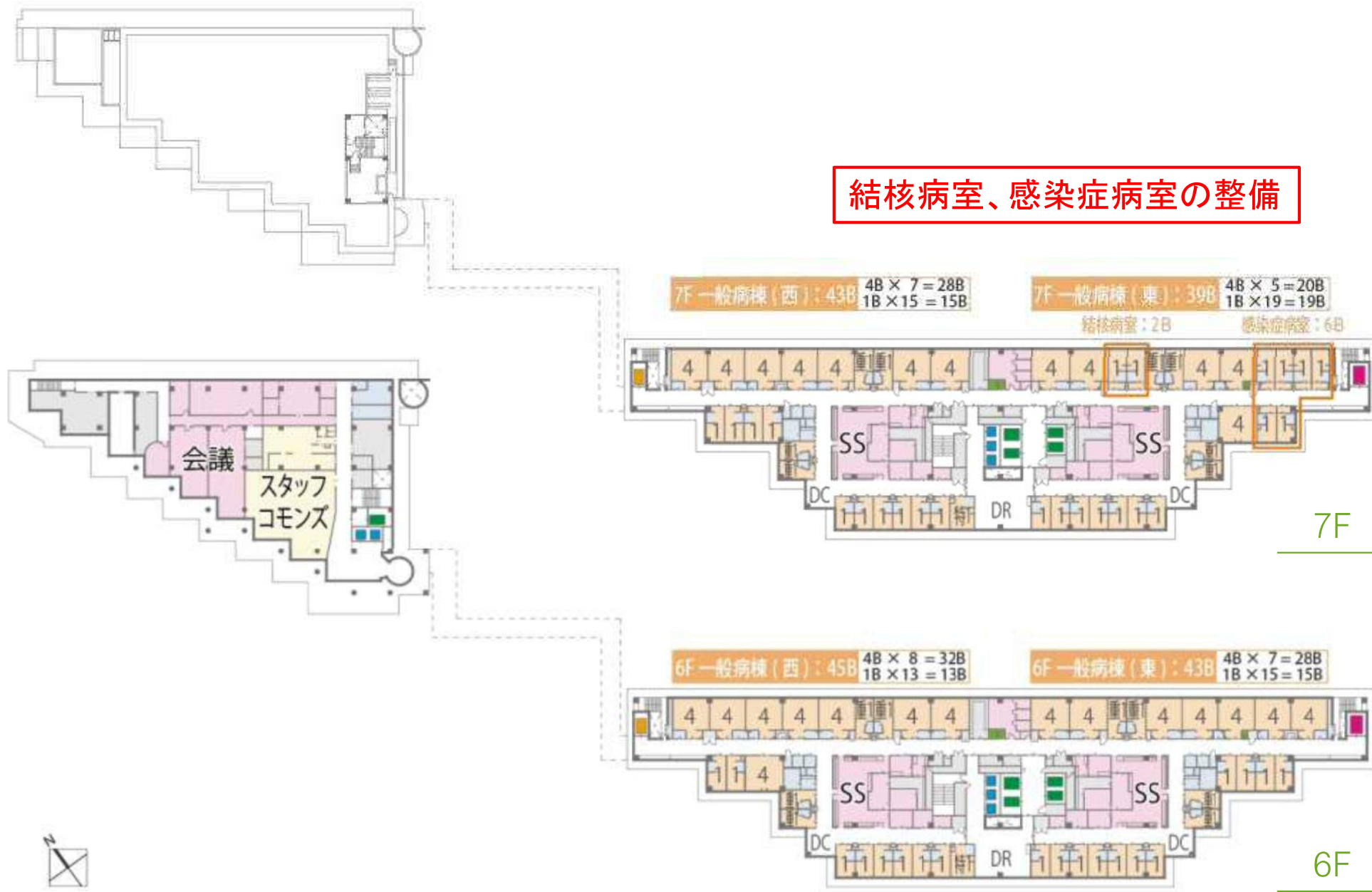
緩和ケア病棟15床を整備



5F

# 6、7階平面図

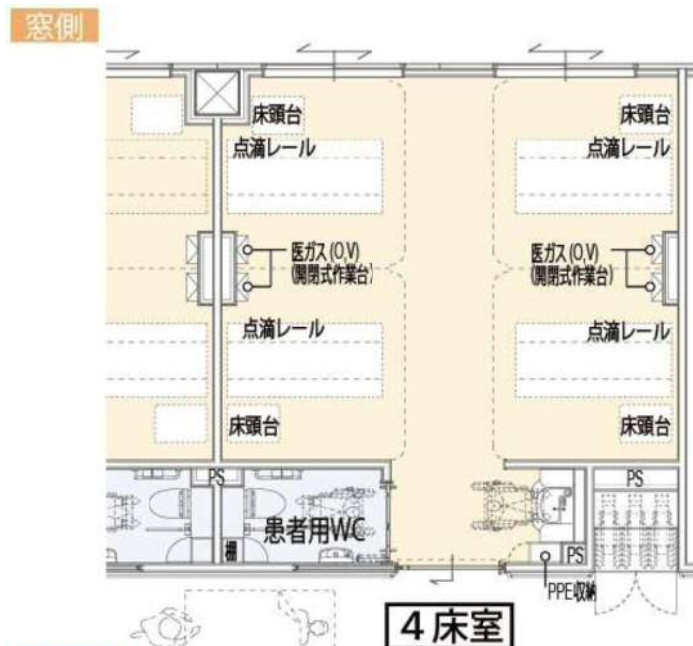
結核病室、感染症病室の整備







# 病室詳細図



1ベッドあたり  
8㎡以上を確保



各室にユニットシャワー  
とトイレを整備

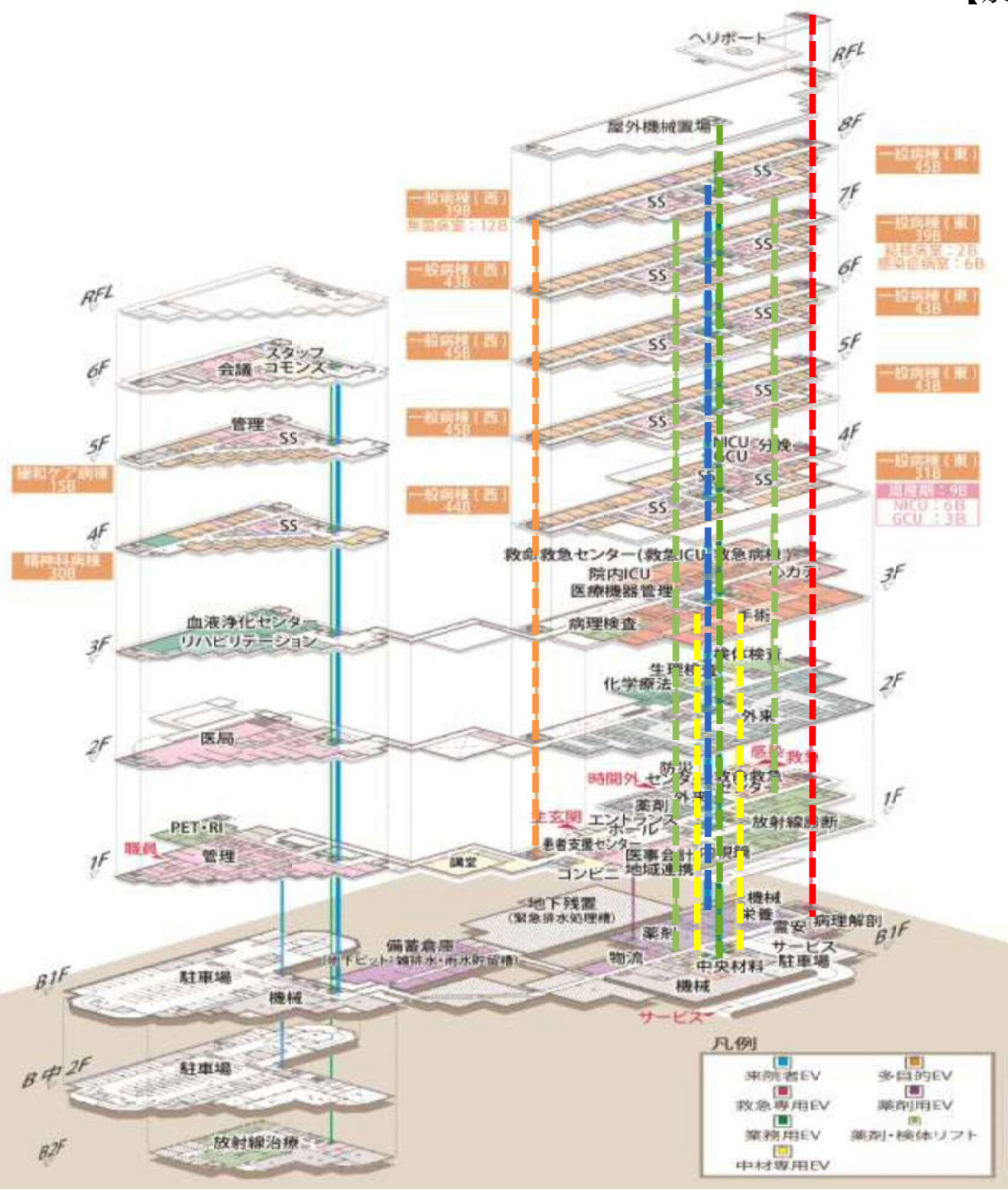
## 部門面積表

大分類	部門名	面積 (㎡)	割合 (%)
病棟	3階救命救急センター(救急病棟・救急ICU)・院内ICU	1,099.34	2.5
	一般病棟 (無菌・感染・結核含む)	12,337.69	27.6
	周産期 (分娩・NICU・GCU含む)	378.93	0.8
	精神科病棟 緩和ケア病棟	2,403.05	5.4
小計		16,219.01	36.3
外来	外来部門 (一般外来)	2,930.10	6.6
	外来部門 (感染診療)	18.00	0.0
	外来部門 (小児外来)	226.42	0.5
	1階救命救急センター	551.45	1.2
小計		3,725.97	8.3
診療	手術部門	1,871.06	4.2
	心カテ	321.93	0.7
	放射線診断部門	1,840.87	4.1
	放射線治療部門	604.45	1.4
	内視鏡部門	411.08	0.9
	検査部門 (検体検査)	461.41	1.0
	検査部門 (生理検査)	416.64	0.9
	検査部門 (病理検査)	235.14	0.5
	検査部門 (病理解剖)・霊安室	192.00	0.4
	リハビリテーション部門	636.01	1.4
	血液浄化センター	690.61	1.5
	化学療法部門	301.33	0.7
小計		7,982.53	17.8

大分類	部門名	面積 (㎡)	割合 (%)
供給	薬剤部門	573.89	1.3
	中央材料部門	287.04	0.6
	医療機器管理部門	131.24	0.3
	栄養部門	702.67	1.6
	物流部門	1,078.59	2.4
小計		2,773.43	6.2
管理	エントランスホール(カフェ・メディアコーナー)	304.96	0.7
	医事会計・地域連携	336.16	0.8
	診療情報管理	150.99	0.3
	患者支援センター	221.28	0.5
	医局・看護・事務・会議等	2,999.98	6.7
	講堂	445.79	1.0
	更衣・当直	425.10	1.0
	利便施設(コンビニ・スタッフ commons)	370.51	0.8
	施設管理 (防災センター等)	245.57	0.5
	機械室	2,443.67	5.5
小計		7,944.01	17.8
共用	廊下 (PS、DS、EPS含む)	5,882.88	13.2
	共用トイレ	204.45	0.5
小計		6,087.33	13.6
合計		44,732.28	100.0

# 断面構成

- 縦動線計画
- 断面構成図



# 災害拠点病院としての設計対応

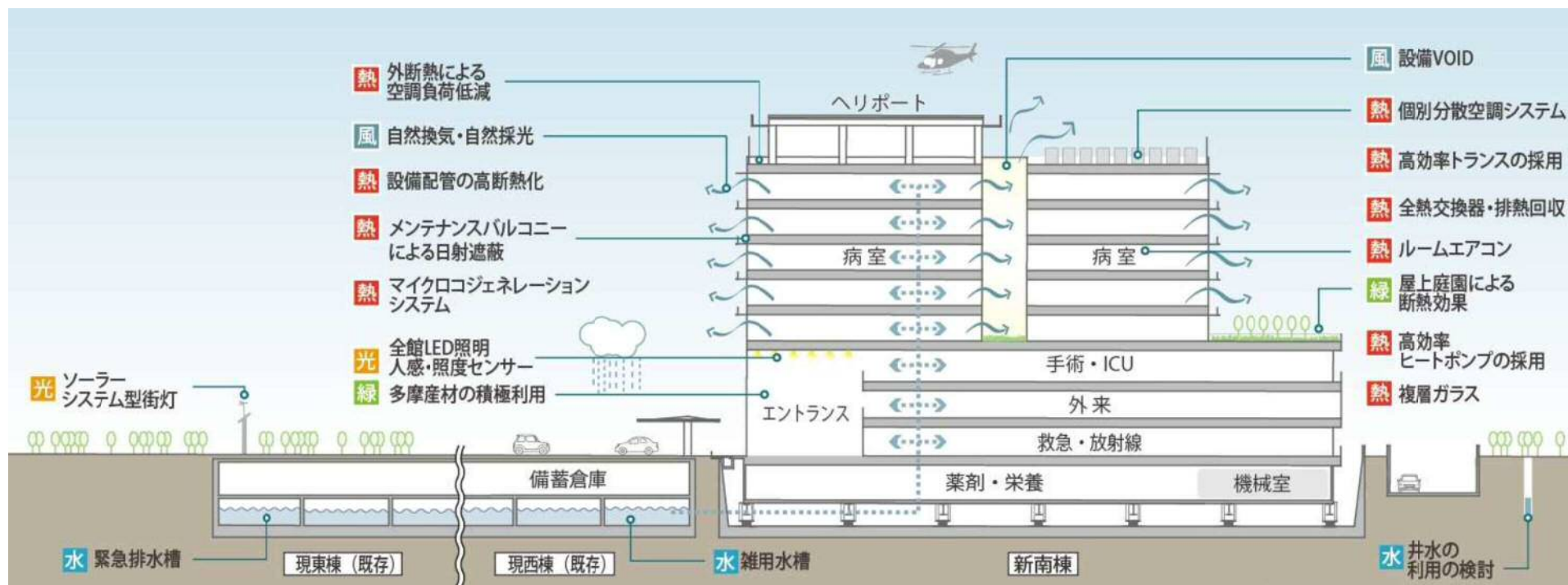
災害拠点病院指定要件（施設及び設備）		設計対応																		
項目	内容																			
①医療関係 ア.施設(ア)	病棟(病室、ICU等)、診療棟(診察室、検査室、レントゲン室、手術室、人工透析室等)等救急診療に必要な部門を設けるとともに、災害時における患者の多数発生時に対応可能なスペース及び簡易ベッド等の備蓄スペースを有することが望ましい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新南棟の病室は、可能な範囲で災害時に4床室を6床室に、1床室を2床室に対応可能な計画とする(特殊な病室は除く)。</li> <li>・病室での対応の他、講堂・多目的室・中央処置室・外来化学療法室・リハビリテーション等を入院患者収容スペースとする。</li> <li>・外来患者の収容については、エントランスホールや外来部門の他、地下駐車場や玄関キャノピー等を有効活用する。</li> </ul>																		
①医療関係 ア.施設(イ)	診療機能を有する施設は耐震構造を有することとし、病院機能を維持するために必要なすべての施設が耐震構造を有することが望ましい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新南棟は免震構造、渡り廊下棟は耐震構造とする。</li> <li>・総合耐震計画基準による耐震安全性の分類は、構造体-1類、建築非構造部材-A類、建築設備-甲類とする。</li> <li>・エレベーターは、地震時管制運転及び自動診断・復旧運転対応とする。</li> </ul>																		
①医療関係 ア.施設(ウ)	通常時の6割程度の発電容量のある自家発電機等を保有し、3日分程度の燃料を確保しておくこと。また、平時より病院の基本的な機能を維持するために必要な設備について、自家発電機等から電源の確保が行われていることや、非常時に使用可能なことを検証しておくこと。なお、自家発電機等の設置場所については、地域のハザードマップ等を参考に検討することが望ましい。	<table border="1"> <tr> <td>電力</td> <td>・非常用発電機を設置し、燃料備蓄により3日間(72時間)運転</td> </tr> <tr> <td>給水設備</td> <td>・使用制限と雑用水利用(現西棟地下ピットに雑用水槽の設置を検討)することで3日分を備蓄 ・井水利用の検討</td> </tr> <tr> <td>排水設備</td> <td>・現東棟の地下ピットを利用し、災害時緊急排水槽の設置を検討</td> </tr> <tr> <td>給湯設備</td> <td>・給湯設備機器の稼働に必要な3日分の燃料を備蓄</td> </tr> <tr> <td>ガス設備</td> <td>・耐震性の高い、中圧ガス本管を地内へ引込み</td> </tr> <tr> <td>医療ガス設備(酸素)</td> <td>・10日分の備蓄(貯蔵量の2/3が10日以上となるように容量を設定)</td> </tr> <tr> <td>医療ガス設備(空気、吸引)</td> <td>・コンプレッサー電源を非常用発電機回路とする</td> </tr> <tr> <td>蒸気設備</td> <td>・蒸気設備機器の稼働に必要な3日分の燃料を備蓄</td> </tr> <tr> <td>空調設備</td> <td>・必要エリアの空調設備を非常用発電機とガスにより稼働させる</td> </tr> </table>	電力	・非常用発電機を設置し、燃料備蓄により3日間(72時間)運転	給水設備	・使用制限と雑用水利用(現西棟地下ピットに雑用水槽の設置を検討)することで3日分を備蓄 ・井水利用の検討	排水設備	・現東棟の地下ピットを利用し、災害時緊急排水槽の設置を検討	給湯設備	・給湯設備機器の稼働に必要な3日分の燃料を備蓄	ガス設備	・耐震性の高い、中圧ガス本管を地内へ引込み	医療ガス設備(酸素)	・10日分の備蓄(貯蔵量の2/3が10日以上となるように容量を設定)	医療ガス設備(空気、吸引)	・コンプレッサー電源を非常用発電機回路とする	蒸気設備	・蒸気設備機器の稼働に必要な3日分の燃料を備蓄	空調設備	・必要エリアの空調設備を非常用発電機とガスにより稼働させる
電力	・非常用発電機を設置し、燃料備蓄により3日間(72時間)運転																			
給水設備	・使用制限と雑用水利用(現西棟地下ピットに雑用水槽の設置を検討)することで3日分を備蓄 ・井水利用の検討																			
排水設備	・現東棟の地下ピットを利用し、災害時緊急排水槽の設置を検討																			
給湯設備	・給湯設備機器の稼働に必要な3日分の燃料を備蓄																			
ガス設備	・耐震性の高い、中圧ガス本管を地内へ引込み																			
医療ガス設備(酸素)	・10日分の備蓄(貯蔵量の2/3が10日以上となるように容量を設定)																			
医療ガス設備(空気、吸引)	・コンプレッサー電源を非常用発電機回路とする																			
蒸気設備	・蒸気設備機器の稼働に必要な3日分の燃料を備蓄																			
空調設備	・必要エリアの空調設備を非常用発電機とガスにより稼働させる																			
①医療関係 ア.施設(エ)	適切な容量の受水槽の保有、停電時にも使用可能な井戸設備の整備、優先的な給水協定により、災害時の診療に必要な水を確保すること。																			
①医療関係 イ.設備(ウ)	災害時に多発する重篤救急患者の救命医療を行うために必要な診療設備。	・1階の救命救急センター初療室にて対応。																		
①医療関係 ウ.その他	食料、飲料水、医薬品等について、流通を通じて適切に供給されるまでに必要な量として、3日分程度を備蓄しておくこと。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飲料水等は、3日分備蓄。</li> <li>・備蓄スペースとして、現西棟地下1階に備蓄倉庫を整備。</li> </ul>																		
②搬送関係 ア.施設	原則として、病院敷地内にヘリコプターの離着陸場を有すること。	・屋上にヘリポート(飛行場外離着陸場)を設置。																		

## 災害時における医療体制

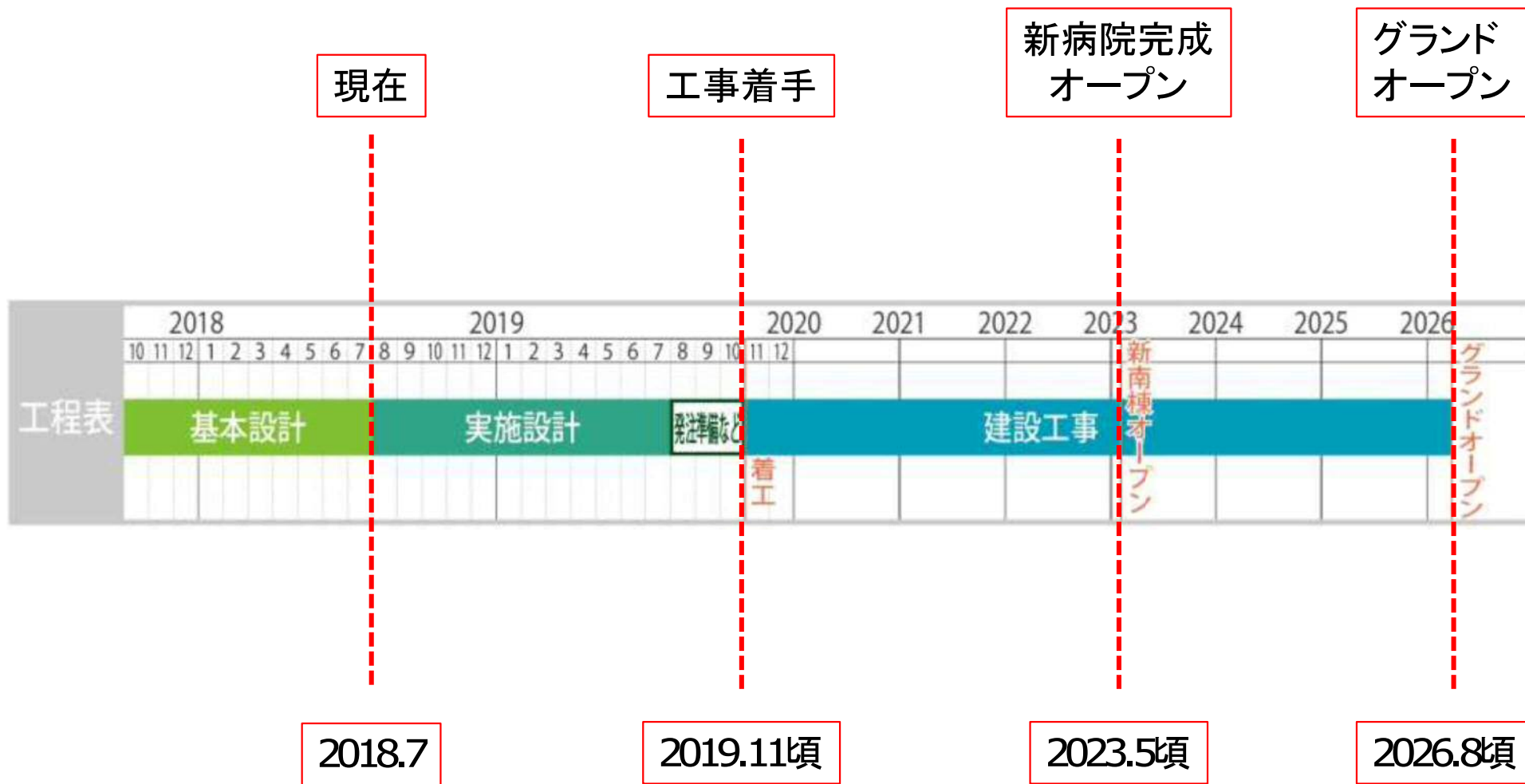
- 病室は1床→2床、4床→6床に利用
- キャノピー、エントランスホール、講堂地下駐車場に被災患者を収容
- 新南棟は免震構造
- エレベーターの地震時管制運転
- 非常用発電機で3日間運転
- 給水、給湯は、3日分を確保
- 雨水再利用、井水の利用計画
- 医ガス、蒸気、空調設備の災害時運転に考慮
- 現西棟の地下に備蓄倉庫を整備(食料、飲料水、医薬品等を3日以上)

# 環境配慮計画

- 新南棟の設備概要 (マイクロコージェネレーション、非常用発電機)
- 環境配慮計画 → 癒しと安らぎの環境の創造を理念として…  
(自然エネルギーの有効利用、緑化計画、熱負荷の低減)



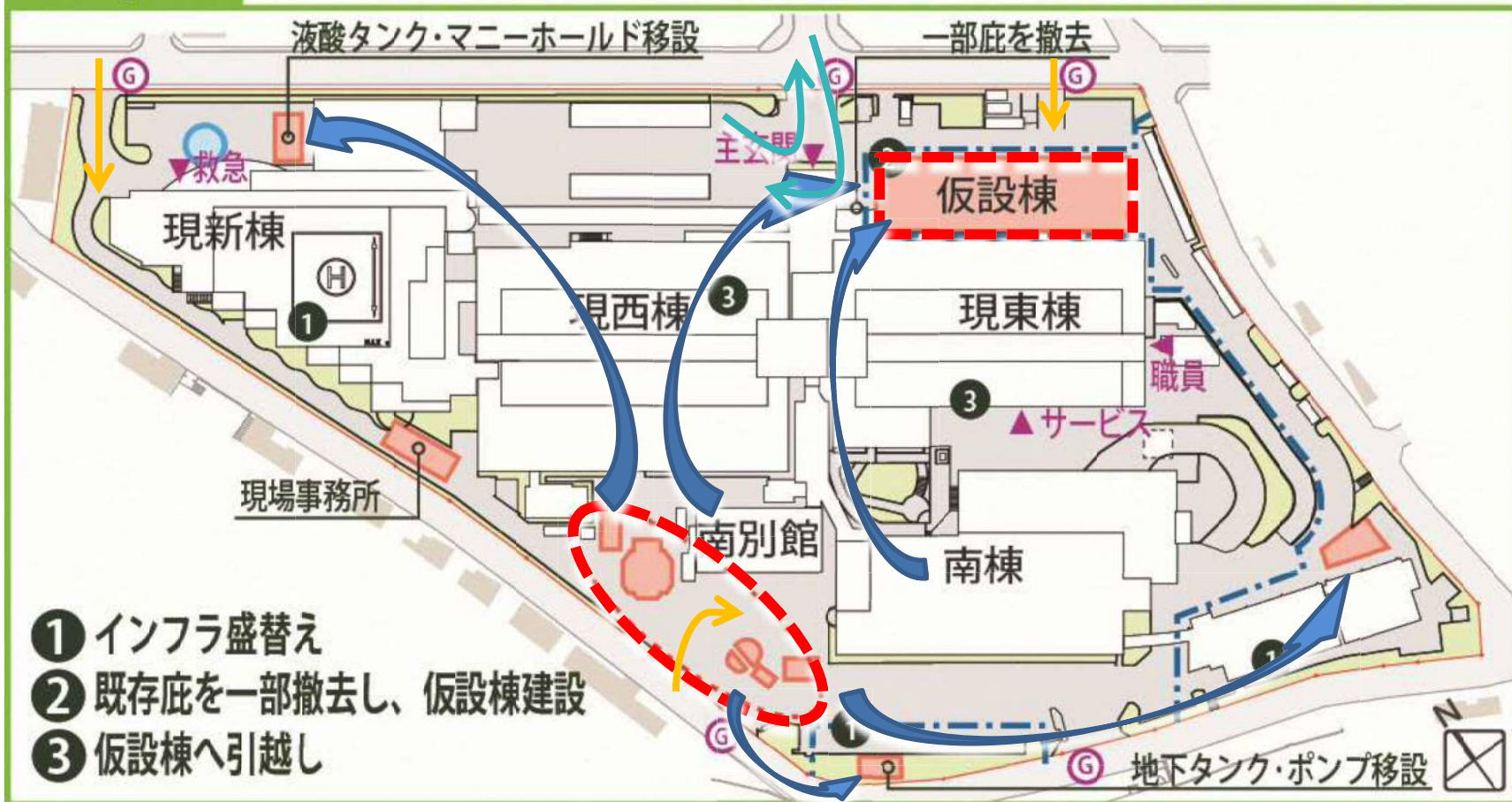
# ■建替計画



全体想定スケジュール

■建替計画

Step.1 インフラ盛替え・仮設棟建設 ⇒ 仮設棟へ引越



凡例	← (Blue)	← (Pink)	--- (Blue dashed)	■ (Red)	■ (Light Blue)
	← (Green)	← (Orange)	Ⓞ (G)	■ (Green)	
	: 来院者車両	: 緊急車両	: 安全区画	: 工事中建物	: 解体建物
	: サービス車両	: 工事車両	: 保安要員	: 工事完了建物	

■ 建替計画

Step.2 南棟および南別館解体



① 南棟・南別館解体

凡例		: 来院者車両		: 緊急車両		: 安全区画		: 工事中建物		: 解体建物
		: サービス車両		: 工事車両		: 保安要員		: 工事完了建物		



# ■建替計画

## Step.3 新南棟建設 ⇒ 引越 ⇒ 新南棟オープン

2023.5頃



- ① 新南棟建設
- ② 緊急車両・一部外構整備
- ③ 新南棟へ引越し

凡例	: 来院者車両	: 緊急車両	: 安全区画	: 工事中建物	: 解体建物
	: サービス車両	: 工事車両	: 保安要員	: 工事完了建物	

# ■建替計画

## Step.4 仮設棟解体 ⇒ 渡り廊下棟建設・現新棟改修 ⇒ 引越





■建替計画

Step.6 現東棟解体及び現東棟地下改修



- ① 現東棟解体
- ② 免震擁壁設置及び埋戻し
- ③ 現東棟地下改修 (緊急排水槽)

凡例	← (Blue)	: 来院者車両	← (Pink)	: 緊急車両	- - - (Blue)	: 安全区画	▭ (Red)	: 工事中建物	▭ (Blue)	: 解体建物
	← (Green)	: サービス車両	← (Orange)	: 工事車両	Ⓞ (G)	: 保安要員	▭ (Green)	: 工事完了建物		

■建替計画

Step.7 玄関キャノピー建設 ⇒ 東側外構整備



- ① 玄関キャノピー建設
- ② 東側駐車場整備

凡例	← (Blue)	: 来院者車両	← (Pink)	: 緊急車両	--- (Blue dashed)	: 安全区画	■ (Orange)	: 工事中建物	□ (Light Blue)	: 解体建物
	← (Green)	: サービス車両	← (Orange)	: 工事車両	Ⓞ (G)	: 保安要員	■ (Light Green)	: 工事完了建物		

■建替計画

Step.8 西側外構整備 ⇒ **グランドオープン** 2026.8頃



① 西側駐車場整備

凡例	← (Blue)	: 来院者車両	← (Pink)	: 緊急車両	- - - (Blue)	: 安全区画	■ (Orange)	: 工事中建物	□ (Light Blue)	: 解体建物
	← (Green)	: サービス車両	← (Orange)	: 工事車両	Ⓞ (G)	: 保安要員	■ (Light Green)	: 工事完了建物		

# 御清聴ありがとうございました

